

人手による取扱い

Standard



目次

1	はじめに	3
2	要請	3
3	人身保護具.....	4
4	健康診断と対応.....	4
5	リスク評価と計画	4
	5.1 揚重作業	4
	5.2 管理	5
6	トレーニング	6
7	監視とレビュー	6
8	情報の変更.....	7

© Ericsson AB 2021

All rights reserved. 本書の情報はエリクソンの所有物であり、予告なく変更されることがあります。エリクソンは、事実に関する誤りまたは誤りについて何ら責任を負うものではありません。



1 はじめに

この基準では、人手による取扱いを行う作業者の健康と安全に危険が及ばないように、単独作業の最小要件を定義します。

この基準は、人手による取扱い（上げ下ろし、押し引き、運搬、保持など）の作業に適用します。化学物質の取扱いは、[科学物質取扱いの基準](#)に記載があり、本基準には含まれません。

現地の法的要件がこの基準を超える場合には、現地の法的要件を適用します。

2 要請

人手による取扱いの作業を行う場合は、以下の要件に従います：

- マニュアル操作活動は、容認されないリスクに従業員やその他の者をさらさないものとします、
- 妊婦、または既往筋骨格障害を持つ従業員は、人手による取扱いの作業を行わない、
- 可能な場合は取扱いに機械を使用し、必ず使用の訓練を受けた権限保持者がそれを操作する、
- 人手による取扱いが避けられない場合、人手による作業に起因する負傷のリスク評価を行い、合理的レベルまで負傷のリスクを軽減する
- 管理措置もしくは解決法の効果をレビューすること、
- 関連作業によって他社に危険が及ばないようにする、
- 一人の作業員単独で持ち上げ作業を行わない、
- 2人以上での持ち上げ作業では、チームの1名を指示者として任命し、チーム内の負荷が同等となるよう指示する、
- 滑りやすい手袋、持ち上げ作業時に引っ掛かる恐れがあるゆとりのある衣服や軽量の靴などの、人手による安全な取扱いの邪魔になる衣服は着用しない。きつすぎる衣服も動きを制限するため着用しない



- 人手による積荷の取扱いが必要な者は、人手による取扱いについて適切な訓練を受ける

3 個人防護具（PPE）

作業時には、以下の適切な個人防護具を着用する：

- 手を切るリスクがある場合は、適切な品質（切れにくく、着用時に動きやすいなど）の手袋、
- 安全靴、そして
- 人手による安全な取扱いの邪魔にならない適切な衣類（例：持ち上げ作業時に引っ掛かる恐れがあるため、ゆとりのある衣服は避ける）。

4 健康と健康管理対策

従業員の健康管理は法的に許可されている場合、現地のリスク評価の一部となります

5 リスク評価と計画

人手による取扱い作業を行わなければならない時は必ずリスク評価を行う。持ち上げ作業は人手による取扱いの中で最も負傷する要素が大きいため、本基準内ではリスク評価においての考慮すべき例として使用しています。

5.1 持ち上げ作業

人手による取扱い作業を含む阿合、作業内容、重荷、作業環境および作業員の能力の4点をリスク評価に含めます。

業務、作業内容は以下の見地より作業員の動きに焦点を当てて評価します：

- 重荷を運搬し設置する高さ、
- 連続的な反復動作、
- 作業量、



- 搬送距離、
- 許可された休憩時間、そして
- （脚は真っすぐで背中が曲がった状態で維持する）前かがみ姿勢のようなぎこちない姿勢、（脚は固まったまま肩を回すような）ねじれ、縦距離による荷物の揚重、肩の高さより上、腿の中央の高さより下、または手を伸ばした状態での重荷の運搬。

荷物、は取り扱われている荷物に焦点を当てて、次の視点から評価します：

- 重量、
- サイズ、
- 形状および縁の仕上げ、
- 安定性、
- 重心、
- 持ち手の有無、
- 温度、そして
- その他の危険源。

作業環境は、取り扱いが行われる場所に焦点を当てて、次の視点から評価します：

- 利用できる作業場の制約、
- 床表面および床の高さの変化、
- 採光の状態、そして
- 温度および湿度。

作業員の**能力**は、取り扱い活動を行う従業員に焦点を当てて、次の視点から評価します：

- 並外れた筋力、スタミナ、体格、テクニックのように通常求められない能力そして
- 妊娠している、または障害を持つ既往の背中、腱、靭帯もしくは筋肉の損傷を伴う従業員労働者が単独で作業する場合、リスクに直面することはないか。

5.2 管理

人手による取扱いのリスク管理は次の管理階層を使用します：



- 作業の自動化及び機械化による人手による取扱いの除去、
- 人手による取扱いの除去は行わず、作業を簡素化する補助の使用
- 作業内容の修正:
 - 小まめな休憩時間の取得または作業員の交代によって作業時間の短縮を行い、連続的な反復動作を管理する
 - 作業場のレイアウトを変更することによる、作業姿勢の無理な姿勢からの正常化、そして
 - 腰の高さに重荷を上げるための機器を使用し、机の上、または床の高さからの人手による持ち上げを除去
- 作業量の修正:
 - 重荷の分割、
 - 複数の作業員での、大きく嵩張る重荷の取り扱いにより、単独作業を除去、
 - 不安定な重荷の固定、固縛による安定化、
 - 重荷の中心から重心が外れる場合、重心位置を印、明確にする、そして
 - 持ちにくい重荷に持ち手をつける。
- 作業環境の修正
 - 十分な作業空間を確保するための再調整、
 - 積荷場所の床面を均等にし段差をなくす
 - 十分な採光のない作業場では追加の光源を提供し十分な採光を確保する。
- 作業員個人の能力が作業に釣り合う事。特定の技能を必要とするなど、特定の能力が必要とされる作業では、作業員への研修・訓練などを行い、特定される技能を習得しなければならない。

6 訓練

従業員は人手による取扱いの訓練を行うことにより、リスクを認識し、最適な作業方法を決定できるようになります。

7 監視とレビュー

以下を事項のレビューと記録を行うことにより、この基準への適合度を監視します：



- 事故の統計、
- 保険請求レポート、
- 訓練、そして
- 管理措置もしくは解決法の有効性の評価。

8 情報の変更

前回の改訂からの変更サマリー:

- 1 書き換えられた「はじめに」
- 2 要件の書き換え及び追加
- 3 追加された健康と健康管理対策
- 4 リスク評価と計画の書き換え及び追加